季刊 山口大学埋蔵文化財資料館通信 第3号

Elementary Archaeological Report

てらこや埋文

2006年 冬

第5回公開授業『古代人の知恵に挑戦！～弥生土器をつくってみよう2～』を開催しました

山口大学埋蔵文化財資料館では、考古学や埋蔵文化財、山口大学構内遺跡の調査研究成果を地域の皆様に身近に感じていただくことを目的として、平成13年度から公開授業を開催しており、今年度で5回目となります。

今年度の公開授業は昨年度に引き続き、吉田キャンパスなどから出土した弥生土器を観察し、それを参考に実際に自分で土器をつくってみるという内容です。今回は、小学生4人、保護者・一般9人、総勢13人の皆様に参加していただきました。以下で授業内容をご紹介します。

土器をつくる

12月4日（土）～粘土から土器をつくってみよう！

午前の部では、土器の歴史や弥生土器について、プリントやスライドを用いて学習し、埋蔵文化財資料館の企画展『古墳の世界～山口県の古墳を探る～』を見学しました。午後の部からはいよいよ土器づくりです。出土品や館員がつくった土器を見てつくりかたを学習した後、実際に土器をつくりました。受講者は粘土の扱いに苦労しながらも大変熱心で、終了時間までに2～3個の土器や土笛をつくりました。いずれも古代のイメージを形にした個性あふれる力作で、その後自然乾燥させました。

火起こし

12月17（土）・18日（日）～土器を焼いてみよう！

17日は、館員による火起こしの説明と実演の後、火起こしを行いました。寒風が吹く中、休憩もとらずに全員熱心に取り組んでいました。その後、弥生時代の土器の焼き方として推測されている「覆（おお）い焼き」という方法に基づき、2種類の窯をつくり、午後12時30分に点火しました。

翌18日、午後1時から土器の取り出しを行いました。一部割れた土器がありましたが、大部分は割れることなく焼き上げることができました！

土器の取り出し

公開授業を終えて

今回の公開授業について、受講者から寄せられたアンケートには、「弥生人の生活の一端を知ることができました」「土器をつくるのがおもしろかった」「とても楽しく来てよかったと思った」などの回答が寄せられ、好評をいただくことができました。

今後も埋蔵文化財資料館では、考古学と埋蔵文化財を学内外の多くの方々に分かりやすく親しんでいただけるような活動を行う予定です。どうぞご期待ください！

（田畑直彦）

たいへんよくできました！

受講者の皆さんとできあがった土器

資料館この一品 vol.3

石庖丁

稲作のはじまり

現在をさかのぼること約2千5百年前、大陸から日本列島の九州北部地方に水田稲作の技術をもった人々が移住してきます。彼らは水田稲作とともに金属製品・ガラス製品の作り方や使い方など様々な魅力的な文化をもたらしました。弥生時代の到来です。

縄文時代には、穀物類を栽培していたとする研究もありますが、多くは狩猟（しゅりょう：イノシシやシカを狩ったり魚や貝を捕る）や採集（さいしゅう：木の実や食べることのできる植物を採る）によって食物を獲得していたと考えられています。しかしながらこのような食物の獲得技術は、技術が向上するとともに自然が枯渇（こかつ：乏しくなる、尽き絶えてしまう）するという問題点を含んでいます。

この問題に対し、水田稲作技術の到来は人々に安定した食料の生産、確保をもたらすこととなり、水田稲作（弥生文化）は瞬く間に列島の広範囲に広まっていきます。

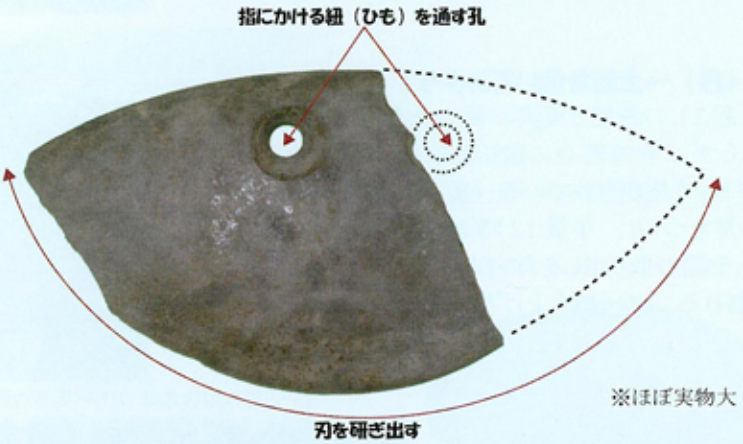
稲作の証拠

稲作は弥生時代に列島各地に波及しますが、残念ながら発掘調査により「水田」自体が発見される例は極めてまれなことです。しかし、我々は「水田」以外のものを発見することで稲作が行われていた証拠を手に入れることができます。それは稲作を行うときに用いられた数々の「農具」の発見です。弥生時代の稲作では、田を耕すための鋤（すき）や鍬（くわ）などの木製農耕具類や、実った稲穂を刈り取る収穫具、脱穀のための木製の杵（きね）や臼（うす）など様々な道具が必要でした。今回紹介するのは、弥生時代の代表的な収穫具である石包丁（いしぼうちょう）です。

石包丁とは？

下の写真は、山口大学吉田キャンパスが所在する吉田遺跡の本部2号館調査区から出土した石庖丁です。ここでおことわりですが、石庖丁とは現在で言う「包丁」のように使われていたわけではなく、稲穂を刈り取るために用いられた石製の道具のことを示します。品種改良がなされていなかった昔の稲は、今と異なり稲穂の高さや成長速度がまちまちでした。弥生時代の人々は、稲穂の実り具合を一つ一つ確かめながら、現在石庖丁と呼ばれているこの小さな道具で収穫を行っていたのです。

（横山成己）



吉田遺跡本部２号館調査区の包含層から出土した石庖丁

魚や野菜を切る道具ではなく…

稲穂を刈り取る道具なのです！

埋蔵文化財のお仕事 vol.3

このコーナーでは、多岐にわたる埋蔵文化財の仕事を紹介します。埋蔵文化財の仕事では土を掘る体力も必要ですが、実は正確さ・緻密さが非常に重要で、根気のいる作業が多いのです。今回紹介する埋蔵文化財のお仕事は…

復　元（ふくげん）

復元とは、接合をしても破片が見つからなかったときに、その箇所に石膏を入れて完全な形にすることです。

～使用するもの～

粘土　パレットナイフ　水　石膏（せっこう）　肥後守　ラバーボウル　新聞　ドラフティングテープ

～復元の方法～

1. 新聞を広げ、土器をその上に出します。
2. 石膏を入れる箇所の周りに汚れ防止のための、ドラフティングテープを貼ります。それを粘土で作った型にかぶせます。
3. ラバーボウルに水を入れ、その中に石膏を入れます。石膏が沈み水が透き通ってきたら、上澄みの水だけを捨てます。
4. 作った石膏を土器にパレットナイフで塗ります。土器より少し厚めに塗ったら、しばらく石膏を乾かします。
5. 半乾きくらいになったら、石膏を肥後守で削ります（土器と同じ厚さにします）。石膏が乾いたら完成です。

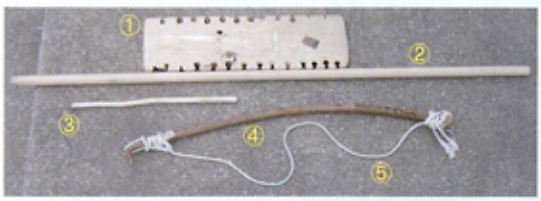
（植木美佳）

古代の知恵に挑戦 vol.3

火をおこしてみよう

ライターなどがなかった時代、どうやって火を起こしていたのでしょうか？
今回は比較的簡単に火をおこせる弓キリ発火法で火をおこしてみました。

①用意するもの



①火キリ用の板　②③火キリ用の棒　④弓状の木　⑤ひも

②火キリ板を作る

①棒を当てる部分と、②摩擦で生じた木粉をためる部分を作ります。

③火キリ棒と弓

まっすぐな木がなかったので差し込み式にしました。

弓状の木にひもを結び、火キリ棒に絡ませます。ひもをピンと張ります。

④火おこし開始

弓を素早く前後させ棒を回転させます。
棒の上に木をあて押さえます。
熱くなるので気をつけて下さい。

⑤火がつく

回転を止めても煙がでるようになったら、息を吹きかけ火を大きくします。

おがくずの箱に入れて燃えだしたら成功です。

成功のポイント

- 地面に直接火キリ板を置くと熱が逃げやすいので、下に板などを敷きましょう。
- ひもをピンと張らないと空回りしてしまいます。
- 棒を板に強く押しつけて回転させると早く火がつきます。

（有本浩紀）

山口県内の博物館紹介 vol.3

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムは、弥生時代の埋葬跡として著名な国指定史跡「土井ヶ浜遺跡」の隣接地に建てられた、わが国で唯一の人類学専門の博物館です。

展示室では、土井ヶ浜遺跡の紹介をはじめ、土井ヶ浜弥生人の顔・かたちの特徴、旧石器時代～現代に至る日本人の形質の変化、日本人のルーツについてわかりやすく展示されています。また、約80体に及ぶ出土人骨の発掘状況を忠実に再現した「土井ヶ浜ドーム」は圧巻です。交通の便は必ずしもよくありませんが、入館者は年間約２万人にのぼります。今回は、小林善也学芸員にミュージアムの展示についてお話をうかがいました。

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム外観

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム展示室

（質問）観覧者からミュージアムの展示についてどのような感想がありますか？

小林「やはり、人骨に関するものが多いです。なぜ、人骨が残ったのか、人骨についてもっと知りたいなど、人骨に関する様々な感想があります。」

（質問）ミュージアムの展示で力点を置いていることは何ですか？

小林「やはり基本は人類学です。一方、近年の圃場整備に伴う発掘調査で、下関市豊北町内では各時代の集落跡が見つかり、遺物も数多く出土しています。これらの新しく得られた調査成果は、地域の歴史的変遷を明らかにする上で重要な資料ですので、今後、企画展などを通して積極的に情報発信したいと考えています。」

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムでは、３月４日午後１時から、第11回土井ヶ浜シンポジウムを「響灘の弥生時代」というテーマで開催します。会場は下関市海峡メッセ・国際会議場です。興味のある方は是非ご参加ください！

（田畑直彦）

お問い合わせ先
土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム
〒759-6121
下関市豊北町大字神田上 891-8
Tel 0837-88-1841

2005年 秋 埋蔵文化財資料館の活動

工学部職員宿舎での立会調査

10月 10/21（金）・24（月）・26（水）
工学部職員宿舎（山口大学工学部構内遺跡）で立会調査を実施。
10/25（火）
吉田構内教育総合研究センター（吉田遺跡）で立会調査を実施。

11月 11/5（土）
第21回企画展『古墳の世界～山口県の古墳を探る～』オープン。（※開催期間：平成18年2月24日まで）
11/14（月）
工学部職員宿舎で確認調査を実施。

第21回企画展オープン

第5回公開授業

12月 12/1（月）
第1回学術情報機構埋蔵文化財特別展
『あしもとの遺跡シリーズ1　古代の吉田遺跡』オープン。
（於：山口大学総合図書館　開催期間：平成18年3月24日まで）
12/4(日)・17(土)・18(日)
第5回公開授業『古代人の知恵に挑戦！－弥生土器をつくってみよう2』を開催。計13名の受講者が参加。

季刊山口大学埋蔵文化財資料館通信
第3号
『てらこや埋文』2006 冬

編集・発行
山口大学埋蔵文化財資料館
〒753-8511　山口県山口市吉田 1677-1
Tel/Fax　083-933-5035
E-mail　yuam@yamaguchi-u.ac.jp

発行年月日　2006.1.16.